

小集会プログラム

2日目 3月28日(水) 午後5時30分～7時30分

3日目 3月29日(木) 午後5時00分～7時00分

2日目 3月28日(水)

W01 A会場 (101)

温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ

世話人：安田弘法・金子修治・鈴木紀之

W011 ○安田弘法 (山形大・農)・金子修治 (静岡果樹研セ)・鈴木紀之 (京大・農・昆虫生態)
「温故知新・昆虫生態学の先輩から学ぶ (1) 桐谷先輩と愉快的仲間」

W012 根本久 (保全生物的防除研究事務所)
「天敵への薬剤影響の程度を知り減農薬に結びつける」

W013 宮井俊一 (日植防)
「桐谷グループ」で学んだこと——害虫防除とモデリングを中心にして

W014 湯川淳一 (九大)
「照葉樹に虫えいを形成するタマバエ類の生態」

W015 桐谷圭治 (伊東市)
「若い人たちへのメッセージ：Back to the future」

W02 B会場 (102)

昆虫の適応形質進化へのゲノム科学的アプローチ

世話人：嶋田透・深津武馬

W021 ○山口淳一 1・山本公子 2・伴野豊 3・枝吉美奈 1・依田真一 1・
藤原晴彦 1 (1 東大院新領域、2 生物研、3 九大院)
「*Wnt1/wingless* は鱗翅目の幼虫表皮でスポット紋様と細胞増殖の両方を
制御する」

W022 ○真野弘明・長谷部光泰（基生研・生物進化）

「ランカマキリの体色を構成するキサントマチン色素群の解析」

W023 ○小沼順二（京大・理学）・千葉聡（東北大・生命）・曾田貞滋（京大・理学）

「マイマイカブリ外部形態の遺伝基盤」

W024 ○大島一正・長谷部光泰（基生研・生物進化）

「QTL解析とゲノム解読による寄主転換の遺伝基盤の解明」

W025 ○木内隆史・王華兵・加藤裕子・藤井告（東大・農）・大門高明（生物研）・

門田幸二（東大・農）鈴木穰・菅野純夫（東大・新領域）・勝間進・嶋田

透（東大・農）

「カイコとその近縁種における寄主植物選択機構の進化」

W026 ○沓掛磨也子¹ 重信秀治², 深津武馬¹（¹産業技術総合研究所, ²基礎生物学研究所）

「分子レベルから見た兵隊アブラムシによるゴール修復行動の進化」

W03 C会場 (201)

外来生物法と外来昆虫

世話人：五箇公一・井上真紀

W031 ○五箇公一・井上真紀（国立環境研）

「特定外来生物セイヨウオオマルハナバチの新たなる防除への挑戦」

W032 ○井上真紀・五箇公一（国立環境研）

「特定外来生物アルゼンチンアリの順応的防除戦略」

W033 高桑正敏（神奈川県博）

「要注意外来生物アカボシゴマダラの最新情報」

W034 岸本年郎（自然研）

「世界遺産小笠原諸島に侵入した外来昆虫の問題」

W04 D会場 (202)

果樹の難防除害虫研究会～シンクイムシ類の効率的防除への取り組み

世話人：望月文昭・新井朋徳・外山昌敏

W041 駒井古実 (大阪芸大・初等芸術教育)

「果樹のシンクイムシ類の識別法」

W042 ○村上芳照・内田一秀・綿打享子・功刀幸博 (山梨果試)

「スモモヒメシンクイの生態と防除」

W043 新井朋徳 (農研機構果樹研ブドウ・カキ)

「岩手県盛岡市の交信攪乱剤設置リンゴ園におけるモモシンクイガの被害と補完防除の効果」

W05 E会場 (207)

昆虫音響学への招待-振動感覚と行動

世話人：高梨琢磨・中野亮

W051 宮武頼夫 (元大阪自然史博)

「昆虫音響学Ⅰ-日本のレビューと現状」

W052 高梨琢磨 (森林総研、同志社大NSBN研究センター)

「昆虫音響学Ⅱ-振動情報の機能と行動、感覚」

W053 ○小島渉・石川幸男 (東大農学生命)・高梨琢磨 (森林総合研究所)

「カブトムシの蛹・幼虫間における振動交信とその進化」

W054 ○西野浩史 (北大・電子研)

「自己受容から振動受容へ-昆虫の擬死行動のメカニズム-」

W06 F会場 (208)

昆虫共生微生物研究：日本におけるこれまでの成果とトレンド

世話人：田上陽介・杉本貴史

W061 野田博明 (生物研)

「我が国の昆虫共生微生物の研究：研究の足跡と今後」

W062 ○三浦一芸 (近中四農研・広島大)・田上陽介 (静岡大・農)

「Haplodiploidy 生物ハチやダニの混沌とする性決定: $2n$ でもメス, n でもメス」

W063 土田 努 (富山大・先端ライフサイエンス)

「共生微生物による昆虫の環境適応—その実態と機構解明に向けた取り組み」

W064 菊池義智 (産総研・生物プロセス、北大・農)

「The Dark Side of the Moon : 内部共生の分子基盤」

W07 G会場 (304)

カンキツグリーンング病小集会 2012~侵入病害虫の防除と根絶、その理論と実践

世話人：井上広光・小堀陽一・上地奈美

W071 ○湯田達也・篠原和孝 (鹿児島農総セ)・坂巻祥孝 (鹿児島大・農)・上福元 彰・川島俊二 (鹿児島県庁)

「喜界島におけるカンキツグリーンング病菌緊急防除の概要」

W072 ○坂巻祥孝(鹿児島大・農)・篠原和孝 (鹿児島農総セ大島)・

湯田達也(鹿児島県大島支庁・特病係)・川島俊次 (鹿児島食推課)・山村光司(農環研)

「喜界島カンキツグリーンング病根絶確認のための必要サンプル数の推定法」

W073 山村光司 (農環研)

「病害虫の侵入を阻止するための数理統計手法」

W08 H会場 (305)

生物間相互作用の情報科学その 9~昆虫の行動多様性を司る生体内分子機構

世話人：大村尚・森直樹・今野 浩太郎・小野正人

W081 ○中山慧 (岡大院・環境)・佐々木謙 (金沢工大・応用バイオ)・

淵側太郎 (岡大院・環境)・岡田泰和 (岡大院・環境)・

西優輔 (岡山県農業総合センター)・宮竹貴久 (岡大院・環境)

「ドーパミン作動系と擬死行動・歩行活動性の遺伝相関」

W082 佐々木謙 (金沢工大・応用バイオ)

「行動の発現・転換・維持に関わる生体アミン」

W09 I会場 (306)

深化するガ類性フェロモンの真価 2012

世話人：藤井毅・櫻井健志

W091 ○藤井毅・石川幸男 (東大院・農)

「発信者の持つ 11 位不飽和化酵素とガ類性フェロモンの多様性」

W092 ○大門高明 (生物研、東大院農)・嶋田透 (東大院農)

「カイコとその近縁種における性フェロモンシステムの進化」

W093 ○光野秀文・神崎亮平 (東大・先端研)

「ガ類の性フェロモン受容体の機能」

W094 ○櫻井健志・田渕理史・神崎亮平 (東大・先端研)

「オス蛾の性フェロモン選択性と高感度性の分子・神経基盤」

W095 ○並木重宏・神崎亮平 (東大・先端研)

「性フェロモン情報を処理する脳内の基本回路」

W10 J会場 (307)

新害虫の発生生態およびその適応戦略

世話人 野村昌史・八瀬順也

W101 ○武田藍・清水喜一・大嵩洋子 (千葉農林総研)

「千葉県におけるケブカトラカミキリの発生生態と防除対策」

W102 ○對馬佑介 (静岡大・農)・今井利宏 (JT葉たばこ研)・西東力・田上陽介 (静岡大・農)

「生息域が拡大している大型昆虫クロメンガタスズメー飼育の試みと生態の報告ー」

W11 K会場 (211)

侵略的外来生物問題その5ー有害動植物侵入！ビフォー&アフターー

世話人：浦野知・守屋成一

W111 ○佐藤雅・時広五郎* (横浜植防：*現・神戸植防広島支所)

「輸入検疫発見トレンドから見る侵入警戒害虫について」

W112 浅井元朗 (中央農業総合研究センター)

「耕地への外来雑草の侵入・拡散-初期警戒のための情報網と危険度評価」

W113 ○佐藤安志・上杉龍士 (野茶研・金谷)

「チャの侵入新害虫チャトゲコナジラミと有望天敵シルベストリコバチ」

W114 後藤哲雄 (茨城大学・農・応動昆)

「ミツユビナミハダニの特性と侵入経路の推定」

W12 L会場 (311)

第5回昆虫ホルモン談話会

「食品科学研究あるいは人類遺伝学研究から昆虫ホルモンへの展開」

世話人：丹羽隆介・篠田徹郎

W121 ○大原裕也・萱嶋泰成 (静岡県立大)・林良樹・小林悟 (基生研)・島田(丹羽)裕子・

丹羽隆介 (筑波大), 小林公子 (静岡県立大)

「ショウジョウバエ前胸腺におけるオクトパミンシグナルの機能解析」

W122 ○鎌倉昌樹 (富山県立大・生物工)

「ミツバチの女王蜂分化誘導因子ロイヤラクチンの発見」

W123 鎌倉昌樹 (富山県立大学)・○丹羽隆介 (筑波大)・篠田徹郎 (生物研)

「ロイヤラクチン研究はいかに進められたのか？～インパクトある昆虫ホルモン研究を目指す研究者のためのフリーディスカッション」

W13 312教室 (312)

アリをめぐる生物種間の相互作用

世話人：秋野順治・坂本洋典・萩原康夫

W131 乾陽子（大阪教育大・教養）

「アリ—植物の共生系に便乗する好蟻性昆虫たちの化学的戦略」

W132 ○遠藤真太郎（信州大院・総工・山岳）・市野隆雄（信州大・理・生物）

「アリによるアブラムシへの化学的「目印」とアブラムシによるアリへの化学擬態」

W14 314教室 (314)

第18回日本ICIPE協会研究報告会：アフリカの昆虫学の話しよう

世話人：足達太郎

W141 湯川淳一（九大／元インペ理事）

「国際昆虫生理生態学研究センター (*icipe*) の理事を退任して」

W142 藤崎憲治（京大院・農・昆虫生態）

「*icipe* 創立 40 周年記念会議参加報告」

W143 皆川昇（長崎大学・熱帯医学研究所）

「西ケニア・ビタ地区におけるマラリア媒介蚊とその制御」

W144 足達太郎（東京農大・国際食料情報）

「アフリカにおける長距離移動性害虫の生理・生態学的特性と管理技術」

3日目 3月29日(木)

W15 G会場 (304)

農薬の生態リスク評価の将来

世話人：本林隆・日鷹一雅・五箇公一

W151 永井孝志（農業環境技術研究所）

「統計学的手法を用いた育苗箱施用殺虫剤の生態リスク評価」

W152 ○渡邊裕純・Dang Quoc Thuyet（東京農工大学）・高木和広・山崎健一（農業環境技術研究所）

「箱施用殺虫剤の水田環境での動態」

W153 ○早坂大亮・是永知子・鈴木一隆・斉藤歩希・五箇公一（国立環境研究所）

「水田用殺虫剤の連続施用による残留・蓄積性が水生生物群集へ及ぼす生態影響」

W154 ○日鷹一雅・本林隆

「総合的農薬影響評価マネジメントに向けて」

W16 H会場 (305)

寄生バチの生態学：効率的な探索行動と寄生とのインタラクション

世話人：安部淳・田上陽介

W161 ○谷聡一郎・馬場成実・上野高敏（九大院・生防研）

「地上-地中間で探索を行う寄生蜂の空間学習を用いた寄主探索戦略」

W162 上船雅義（京大・生態研）

「植食者誘導性植物揮発性物質に対するコナガコマユバチの利用様式」

W163 ○中嶋祐二・若村剛・藤崎憲治（京大院・農・昆虫生態）

「スペシャリスト卵寄生蜂がホオズキカメムシの産卵行動に与える影響」

W164 綾部慈子（名大院・生命農・森林保護）

「潜葉虫メインパターンの防衛効果と寄生蜂の寄主探索戦略に見られる拮抗関係」

- W165 ○阿部真人(東大・広域システム)・堀部直人(ディスカバー21)・嶋田正和(東大・広域システム)
「寄生蜂 *Heterospilus prosopidis* における宿主探索行動の非線形時系列解析」

W17 I会場 (306)

昆虫学と工学の接点：エントモミメティクス

世話人：森直樹・藤崎憲治

- W171 藤崎憲治(京大院・農・昆虫生態)
「エントモミメティクスの創生と展望」
- W172 下村政嗣(東北大・WPI-AIMR)
「バイオミメティクスから生物規範工学へ：生物・工学連携によるイノベーション」
- W173 ○高梨琢磨^{1,3}・中野 亮^{2,3} (1森林総研、2農研機構 果樹研、3同志社大 NSBNRC)
「昆虫における音・振動情報の機能とその応用」
- W174 針山孝彦(浜松医大・医学部・生物学)
「生物はなぜ構造色をもつのか」
- W175 ○森直樹・吉永直子(京大院農・応用生命)
「鱗翅目幼虫による食害の模倣：生態学的視点とその生合成」

W18 J会場 (307)

第42回ハダニ談話会

世話人：岸本英成・後藤哲雄

- W181 長泰行(千葉大院・応用昆虫)
「ナミハダニは脱出先の匂いを利用して捕食回避行動をとる」
- W182 伊藤桂(高知大・生命環境医学部門)
「ハダニの休眠率が意味するところ」

W19 L会場 (311)

もっと薬剤抵抗性マネジメントを考えよう

世話人：園田昌司

W191 山本敦司（日本曹達株式会社 小田原研究所）

「持続的な害虫制御と薬剤抵抗性マネジメントの新たな課題」

W192 ○三浦一芸（近中四農研）・土田 聡（果樹研）・十川和士・渡邊丈夫（香川農試）

「薬剤抵抗性個体を識別する」

W193 古谷章悟、浅野拓也、松井美佳奈、山口武則、○松田一彦（近大院農・応生化）

「殺虫剤の構造変異に起因する抵抗性の起源と展望」

W194 鈴木芳人（京都市）

「殺虫剤抵抗性の発達をどう抑制するか」

WS 312教室 (312)

技術士（農業部門・植物保護）試験対策セミナー

世話人：日本応用動物昆虫学会 技術士育成推進委員会

(1) 技術士制度について

国見裕久（東京農工大学）

(2) 第1次および2次試験対策

伊澤宏毅（鳥取県農林総合研究所）

(3) 合格体験

黒木修一（宮崎県農政水産部営農支援課）

丸山威（住化テクノサービス株式会社）

(4) 質疑応答